



特定非営利活動法人

おもしろ科学たんけん工房

2010年7月1日発行

たんけん通信 第32号

青少年のための

科学の祭典

神奈川大会

県立青少年センター 主催

平成21年8月8日(日)10:00~16:00

おもしろ実験ショー；科学工作など

会場：紅葉坂 県立青少年センター

〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘9-1

桜木町駅から徒歩10分

おもしろ科学たんけん工房も
出展するので、ぜひ見に来て
ください。

科学体験活動推進スタッフ養成研修

今年度第1期研修が始まりました。

当初38名の応募がありましたが、辞退があり、

実習は26名でスタートしました。

横浜市青少年育成協会との共催事業です。

実習オリエンテーション：6月26日(土)

実習は 7月中旬から12月初旬までの予定。

2010年度 第1期 養成研修がスタート

横浜市教育委員会後援；

(財)横浜市青少年育成協会との共催

前回の集合実習風景(資料映像)



2010年5月31日(金)午前、かながわ県民センター(横浜西口)の会議室で、特定非営利活動法人おもしろ科学たんけん工房の、第8期(2009年度)通常総会が開催されました。

第8期通常総会 終了

総会では、2009年度の事業報告が行われ、収支計算書を含む決算書と事業報告者が承認されました。

前年度決算と比較した 収支計算書を2ページに掲載しました。また、2002年のスタートから8年間のおもしろ科学体験塾への参加児童数の推移も、表とグラフで示しました。

⇒ 2ページをご覧ください。

なお、総会で承認された詳細な収支計算書と事業報告書は、横浜市の所轄部署に提出し、公開されますので、どなたでも、閲覧することができます。また、県が管理するホームページでも検索閲覧が可能です。

所轄部署：県民部 NPO協働推進課

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/02/0223/npo-etsuran/index.html> (現在は08年度の情報をPDFファイルで見ることができます)

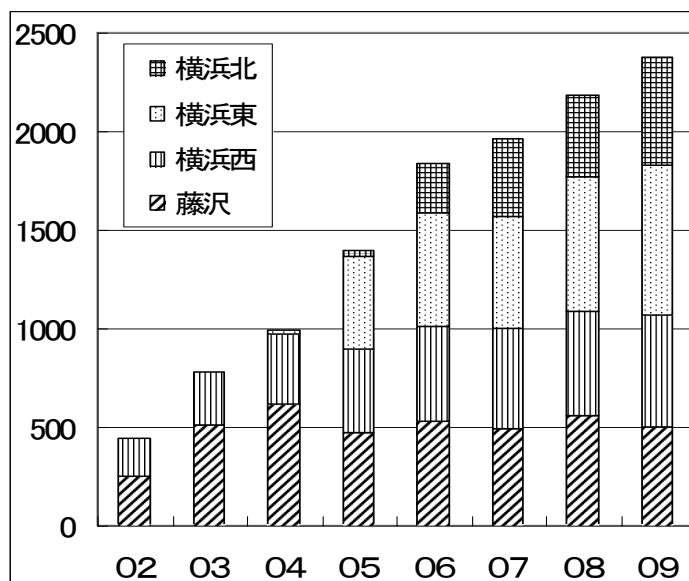
おもしろ科学たんけん工房の会員や、活動スタッフの推移状況(事業報告書から抜粋)

時点	内訳	正会員 (休会者を含む)(a)	サポーター (準会員) (b)	(a+b)の内 実働 メンバー
2002/ 4/ 1		17	4	12
2003/ 3/31		27	8	21
2004/ 3/31		36	15	37
2005/ 3/31		37	20	43
2006/ 3/31		41	51	75
2007/ 3/31		60	70	112
2008/ 3/31		70	71	125
2009/ 3/31		110	39	137
2010/ 3/31		132	27	144

(a)(b)には非実働の会員も含まれます。

2009年度 収支決算の概要				対比	前年2008年度 収支決算の概要			
	科 目	金額(千円)	内訳金額		科 目	金額(千円)	内訳金額	
収入	会費・入会金収入	1,035		収入	会費・入会金収入	1,061		
	正会員会費		815		正会員会費		751	
	賛助会員・準会員		220		賛助会員・準会員		310	
	事業収入	2,738			事業収入	2,337		
	科学塾参加費等		2,628		科学塾参加費等		2,196	
	育成事業参加費		110		育成事業参加費		141	
	寄付金	462			寄付金	487		
	企業からの寄付		0		企業からの寄付		100	
	個人寄付		462		個人寄付		387	
	助成金・補助金収入	120			助成金・補助金収入	150		
	受取利息雑収入	1			受取利息雑収入	12		
	当期収入小計	4,355			当期収入小計	4,247		
	その他収入	3,402			その他収入	3,382		
	前期繰越収支差額		3,402		前期繰越金		3,382	
	収入合計	7,757			収入合計	7,628		
支出	事業費支出	3,150		支出	事業費支出	3,381		
	1.科学塾		2,751		1.科学塾		2,848	
	2.普及啓発活動		242		2.普及啓発事業		271	
	3.ネットワーク				3.ネットワーク			
	4.発掘養成事業		157		4.発掘養成事業		262	
	管理費支出	736			管理費支出	846		
	当期支出合計	3,885			当期支出合計	4,226		
	当期収支差額	470			当期収支差額	(20)		
	次期繰越収支差額	3,872			次期繰越収支差額	3,402		
	支出合計	7,757			支出合計	7,628		

地域別	年度	02	03	04	05	06	07	08	09	累計
	藤沢	254	508	614	471	531	489	561	501	3,929
横浜西	193	269	359	425	478	507	529	565	3,335	
横浜東			15	471	579	574	683	759	3,022	
横浜北				31	246	394	414	549	1,751	
合計	447	777	988	1398	1834	1964	2187	2,491	12,027	



おもしろ科学体験塾に参加した児童数の地域別推移表[上]と、推移グラフ(左)

当初 2会場でスタートした「おもしろ科学体験塾」ですが、ごらんのとおり、4地域で15会場を超えて拡がりました。
子どもたちが自転車で行けるところに、あまねく科学体験塾を！という願いも決して単なる夢ではありません。

参加児童累計が
1万2000人を超えました。



おもしろ科学たんけん工房 藤沢地区グループ便利 No.13

夏休みの主な行事：今年も藤沢市公民館3館から依頼を受けた、次の出前教室が予定されています。

- 1) 遠藤公民館：7月26日(月)「ヘリコプター工作教室」
- 2) 辻堂公民館：7月29日(木)「ふしぎなヘロンの噴水」
- 3) 湘南台公民館：8月23日(月)「ゴムの力で飛ぶヒコーキ」。

この他8月8日(日)に湘南台公民館で開かれる子どもと大人のための科学体験行事に、たんけん工房が後援する展示や工作教室が予定されています。

夏休みの自然観察として毎年好評な「セミの羽化観察」は、今まで日本大学湘南キャンパスを借用して開いていましたが、今年は場所を変え、7月31日(土)に藤沢市民会館の前庭で行う予定で、藤沢南部の子ども達も近くて参加しやすいでしょう。また藤沢市立中学校生徒対象の「飛行機教室」は6月20日(日)と6月27日(日)に湘洋中学校でそれぞれ初級と上級の飛行機製作を、作った飛行機を飛ばす「飛行会」は7月17日に辻堂海浜公園で行われる予定です。



風船って
重いよう

重いのは
どちらか
な?

トピックス：てんびん秤を作りその原理をいろいろな実験で試してみる「てんびん秤」を3月27日に湘南台会場で(写真1)、空気には重さがあることなどを体感する「気体の力」を4月10日鶴沼会場で(写真2)、4月24日に実施した湘南台会場の「ブーメラン」では、厚紙でブーメランを作り(写真4)、自転車の車輪を回す実験(写真3)などを通じて、ブーメランが手元に戻ってくる原理を勉強しました。



ちゃんと戻ってきます
ように・・・



回っている
車輪は傾か
ないんだ!

写真3

子供達の笑顔が私達のやりがいです...理科工作や自然観察を一緒に楽しもう

取材と記事制作：藤沢地区グループ：郷、品田

横浜東地区グループ便り

東地区 夏休みのイベント紹介



いよいよ夏休みです。今年も地域から出前塾等の要請がありました。定期的に開催している体験塾とまた一味違った内容で、地域の皆さん・子ども達に科学のおもしろさを味わってもらえればと思っています。

お問い合わせは各開催センターまで、お願いいたします。

- 7/23 (金) 南区大岡地区センター出前塾
「見ようさわろう、音のせかい」
- 7/25 (日) 南区永田地区センター出前塾
「見ようつくろう、音のせかい」
- 7/28 (水) 横須賀市浦賀コミュニティセンター出前塾
「ヘリコプター」
- 8/2 (月) 横須賀市鴨居コミュニティセンター出前塾
「にじいろの涙」
- 8/4 (水) 金沢区富岡並木地区センター出前塾
『わんぱくホリデー』『風力車(有馬版)』
- 8/6 (金) 南区南地区センター出前塾『夏休み科学教室』
「見ようさわろう、音のせかい」
- 8/8 (日) 県立青少年センター
『青少年のための科学の祭典』
「科学・工作ひろば」
(たんけん工房全体で参加)
- 8/22 (日) さかえ区民文化センター『リリスの大冒険』
「にじいろをテーマに工作塾」

「全体交流会」 心地よい達成感



委員会の仕事を殆ど委員長に任せていた不肖の委員でも交流会が終わってホッとしていた。そこへ東Gの記事の仕事が不意に回ってきた。どんな優秀な記者でも取材していないものは書けない。展示の時間帯は一応自分もゲストであり、東Gの展示を見ていないのである。

今回のテーマは「工房のアイテムだけでなく趣味の物も展示して自己紹介する」であり、展示のまとめ役はどんな趣味が送られてくるかメールを開くのが楽しみであった。女性からは押し花や折り紙等、きれいな工芸物が多く男性からは昔の科学少年を思わせる物が寄せられた。

中でも鉄道模型は自分も子供の頃の趣味で、是非見たいと思っていたが見ずに終わり、「おもしろ俳句」は自分に素養が無いのでお話を聞きたいと思っていたが、これも聞けずじまいである。

グループの人達に「趣味の物なら何でも良いから出すように」と言って来た手前、何も出さない訳に行かない。主任をする

事になっていたインドアプレーンの試作品を置いても机は全然埋まらない。

そこで唯一の趣味となった「歩く」の中の一テーマ、「東海道歩き」に使っている地図を展示する事に。これなら沿道毎に沢山あるのですぐに埋まる。

しかしこんな物を見に来てくれる奇様な人がいるだろうかと不安に包まれて当日を迎える事になる。

確かに来てくれた人は多くは無かったが来られた方は歩く事や山登り、街道歩き等に興味がありこれらの話に花が咲いた。

会話が弾んで、心地よい達成感に包まれながら交流会が終わったのである。

田中 敏彦記



地球温暖化と石油資源

藤浦 英士

地球温暖化対策と景気刺激策として、エコ減税・補助金、エコポイントなどの対策がなされております。

地球温暖化については石油等の化石燃料から排出されるCO₂などによるものとされていますが、温暖化の主たる原因は太陽活動等の自然現象によるグローバルな気温変動であり、化石燃料からのCO₂が主な要因ではないと論じている地球関連科学者は少なくありません。また温暖化は必ずしも悪いものではないと主張する人もおります。しかしながら、世界130国以上、2千人以上の専門家が関与したIPCC第4次報告書では、地球温暖化の主要因は、化石燃料消費により人為的に排出された温室効果ガス(主にCO₂)であり、温暖化は地球環境に様々な悪影響を与えるとの報告をしております。かれらは旗色が悪いようです。

ところで化石燃料の筆頭の石油埋蔵量は、どのくらいあると思いますか？

世界の確認可採埋蔵量は約1兆2千5百万バレルで、富士山(体積1千4百立方キロ)で量ると約1/7杯(0.14杯)分にすぎません。現在の消費量で継続消費すると、あと42年(可採年数)分です。今後新たに発見されると見込まれる埋蔵量を加えても約60年分にすぎません。3億年以上もの地質年代を通じてせっせと生成し、地下に溜め込んだ石油を、人類がたったの2百年くらいで、使いきってしまうことになります。

たとえ石油消費と地球温暖化は関係ないとしても、省エネ努力は必要です。

限りある資源を大切に!!





横浜北地区グループ便り



春休み 電気の史料館 出前塾

「川崎駅西口」から臨港バスに乗車して行ける西の方角に、東京電力の電気の史料館があります。春休みイベントとして、3/27-28に、出前の科学塾を実施しました。

1日目は、300人を越える来場者。工作コーナーは、大盛況で、準備した50セットが全てなくなりました。科学塾の信号機は、午前、午後、それぞれ、30名、27名のこども達が参加しました。

2日目の科学塾は、モーターがテーマ。客足も少なく、参加の人数もやや少なめ、午前8名、午後18名でした。通常の科学塾と異なり、子どもたちの年齢層も低いため、同伴の保護者、工房のアシスタントが総がかりです。心配そうに見守るこども達の目の前で、自信たっぷりにエナメル線を巻き、部品の組み立てに取り組みました。

最後に、モーターが廻ると、子どもたちは、歓声とともに、回転するモーターに不思議そうに見入っていました。会場も広く、アットホームな雰囲気、新鮮な体験でした。
(遠藤悦郎)



東山田中学校コミュニティフェスタ



5月22日(土)に、東山田中学校コミュニティーハウスにてフェスタが開催されました。工房として初めて参加し、無料にてストロートンボとカップカーの工作を行いました。

11時開始でしたが、カップカーは13時頃57台すべてがなくなり、ストロートンボは14時終了時点で100機離陸してゆきました。

こういった出前工作教室は、プログラムによる進行ではありません。子どもの年齢によってどの程度手伝うか、時間はどのくらいかけるか、裁量の余地がけっこうあります。

しかしどの子どもも、自分で一生懸命つくったものがうまく走ったり飛んだりすると、素晴らしい笑顔を見せてくれることに変わりはありません。

私の会社の友達に言わせれば、「給料をもらえないのに働かなくて…」と理解不能のようです。でも給料が無いからこそ、ボランティアは楽しくなければやってられませんよね。子どもたちに喜んでもらうことは、大きな原動力の一つであることは間違いありません。
(森越 彩)

神奈川湊フェスタ

4月29日(木・祝日)、快晴! 神奈川区の水再生センター敷地で行われた湊フェスタに参加して、ワークショップを行いました。幼児や小学生が行列し、大盛況でした。

折からの突風や小雨の中、子どもたちはストロートンボやブーメランを飛ばして、歓声をあげていました。

また、ストロートンボーン作りに取り組み、ストローに息を吹き込んで、簡単なメロディを楽しみました。子どもの中にはストロートンボーンの音が出ないので、何度も挑戦してやっと出るようになり、兄弟や姉妹、家族や友達同士で見せあって、吹き鳴らしながら踊るようにして喜んでいました。満足感にあふれた子どもたちは、口々に感謝の言葉を述べていました。

工房のスタッフは笑顔いっぱい、子どもたちに何度も説明を求められ、手ほどきをしていました。子どもは本来、科学好き、知的な好奇心や探究心があると実感したスタッフも多かったと思われます。音色に誘われて子どもたちが並び、午前中で終了となりました。
(桑原正子)





安藤祐二郎 さん

(横浜北Gp)

A1：神奈川県新明町生まれ。横浜大空襲は1歳のときで、親に負われて逃げたそうです。以後、菊名、白楽とずっと近場で育ちました。白幡小、神奈川中学、高校も歩いて通えるところでした。仕事は製品設計そのものではなく、設計の条件を決めることでしたが、トヨタで見られたようなトラブルも多く経験しました。特殊な環境下で耐久後に起こるような問題はテストでは把握しきれないケースが多々あり、新技術を取り入れるさいは仕方がないことと実感しています。

A2：当工房で活躍している大学時代の同級生の話聞いて、退職後、遊んでいるだけではまずかろうと思ひ参加しました。今後日本の競争力が落ちてゆく可能性が強いので、我々の老後のためにも次世代の若者に技術に興味を持ってもらう手助けになればと思います。

A3：面白いテーマが最も大事だと思います。自分の専門の分野でも思いましたが、基本的な物理現象に関するものの方が良いと思っています。NHKで放映しているような大人でも引き込まれるような実験が取り入れられたら良いと思いますが、まだめどはありません。

A4：山菜、野菜などの栽培とそれを食べる
こと。道端に生えているスベリヒユ、アカザ、
露草など美味です。



ウルトラマラソンは70歳で、フルマラソンは80歳での
完走が目標でトレーニングを続けています。

サボテンの育種は最近少し手抜き気味です。

A5：本は種類を問わず沢山読むのがよいとおもいます。

テレビなどのようにいつも利用しているものの仕組みが分かることは大変楽しいことだと思います。興味はあるのだけれど難しくてという子供には当工房の出番なのでしょう。もちろん興味は別のところと色々な子がいてよいのですが。

A6：以上一人前のことを書きましたが、活動状況は中くらい以下でしょうか。他にしたいこととの兼ね合いで当面はご勘弁ください。

スタッフのプロフィール

6面から8面にかけて、プロフィールを掲載しています。

- Q1 生まれた場所と、現在お住まいの場所、簡単な略歴。
Q2 たんけん工房に参加するようになったいきさつと、動機。
Q3 たんけん工房でやりたいことはどんなことですか
具体的なテーマでも、夢のイメージでも。
Q4 趣味や道楽は？
Q5 子どもたちに ぜひすすめたいことはなんですか？
Q6 その他付け加えたいことがあれば、ご自由にひとこと。

田島 秀夫 さん

(横浜西 Gp)



A1：1937年東京で生まれる。父出征
で埼玉県(現本庄市)に疎開し、高校まで過ごす。機械工学科
卒後、電機メーカーで製造、生産技術、品質管理に従事し、そ
の後電池メーカーの営業や家電製品のお客さま相談など経験す
る。横浜市保土ヶ谷に住んで32年経ち、現在妻と2人暮らし。

A2：会社勤めを辞めてから短期的なボランティア活動をして
いて活動に物足りなさを感じていたとき、区役所の広報展示
場に 当推進スタッフ養成のチラシを見て、これなら子供
と楽しみながら活動が出来ると思ひ参加した。

A3：工房で工作づくりと実験や観察など行ってるが、「なぜ、
どうして」と思ったことについて、いろいろと考え、確かめ
ることの時間をもっと増やせれば良いと思うことがある。
確かめて解かったことをまとめてみることで、考える力が
育っていくし、面白くなっていくと思う。

A4：ゴルフや水墨画を描いている。絵や焼き物を観に出かけ
るが、自分の作品を自宅襖や床の間に飾れたら楽しかろうと
思ったことが始まりで、習い始めて14年経つが気韻生動し
た画が描けない。水墨画の団体に加入して毎年、銀座・京橋
などで展示会を開催してる。

A5：何の本でもいいが本を読むことを薦めたい。理科に興味
をもってもらうには、自然観察やものに触れたり、いじったり、
遊んだりして、好奇心を持って いろいろと体験するこ
とが大事だと思う。子どもにそのような環境を造ってやるこ
とも必要。

新理事1名/新監事1名が選任されました

5月31日に開催された総会で、1名の理事、1名の監
事が選任されました。辞任された理事、監事のそれぞれ補充
の目的です。

<新理事>：島田祥生(しまだ さちお)、

<新監事> 大出 積(おおで つもる)

辞任理事：石井正司、鈴木健夫

辞任監事：青柳好昭





加藤俊一 さん

(藤沢 Gp)

A1: 東京神田の生まれ。大学卒業後、電機メーカーに入社。当時、開発中のカラーTV 受像機の開発に参画。国内での生産の立上げ後、そのカラーTV の海外生産展開に従事し、欧米、メキシコ等に赴任し、20 年以上海外で過ごす。戸塚区内の現在の家には 25 年前に一時住んでいたが、帰任し、現住所に定住したのは 10 年前で、やっとこの地区に慣れてきました。

A2: たんけん工房創設者の一人で会社の先輩であった方の勧めで、体験塾を見学。工作・実験等に生き生きと取り組んでいる子供達の姿と理論的には相当に難しいテーマも創意工夫して、分かり易く教え・指導されておられる主任・会員方々の活動に感動。自分の子供時代を思い出し、次世代の子供達の理科離れに、少しでも役立てれば・・・と思い、参画しました。現在、私自身楽しんで活動しています。

A3: 先ず、先輩の開発したテーマを出来るだけ多く学び、アシスタントに努め、工房の活動に貢献したい。と共に、自らの新テーマの開発に取り組みたい。身近で生活に密着しているが、物理的には基礎的なテーマや、出来れば、昨今話題の環境、宇宙、脳科学等の応用テーマ等も考えてみたい。

A4: 神田の古本街に在住時、購入したものの、積読となっている古典等の書籍に本格的に挑戦を始めた。現在、原文(漢文)の「十八史略」(曾先之著)等を熟読中。一方、勤務の関係で長年面倒を見てこなかったので、高齢の一人住まいの実母のサポートに勤めている。

A5: 工作や実験を楽しみ、びっくりし、好きになって欲しい。理屈は、今、分からなくても良いから、「どうして?」「なぜなの?」等の疑問を「ネバー・ギブ・アップ」の精神で、いつまでも持ち続け手ほしい。そうすれば、必ず、理解できる機会が来るので・・・。

A6 子供時代のふしぎな体験、「なぜだろう? どうして?」の疑問、「すごい!」の感動は、単なる知識の詰め込みの何十倍も重要で、子供達の人生を豊かにしてくれると思います。「知識を教えるのではなく、理科の楽しさを子供達と分かち合う」とする探検工房の趣旨を実現するように活動して行きたいと思います。それにしても、理論的には相当に難しいことを、余り金をかけずに、創意工夫して、工作・実験を開発し、その上、分かり易く教え・指導されておられる主任の方々の活動には敬服致しております。



田中敏彦 さん

(横浜東 Gp)

A1: 旧門司市、現在の北九州市門司区に生まれました。今は磯子区洋光台、子供宇宙科学館のすぐ近くに住んでいます。最初に就職した会社でフライトシミュレータの仕事をしました。その後計算機の会社に転職してSE の仕事を続け、5 年前に定年退職しました。

A2: 家から近い事もあって、子供宇宙科学館で何か出来る事がないかなあと漠然と考えていた頃、最初の会社の先輩であります、北グループの古村さんからたんけん工房の紹介があり誘って頂きました。

A3: 現場実習でインドアプレーンの塾に参加して、子供の頃好きだった模型飛行機への思いが目を覚ました。飛ぶ物を作る事は大変面白いですね。しかもその動きを制御出来たら尚更です。このような面白い事を子供たちにも体験させられたら良いなと思っています。

A4: 昔は色々趣味があったのですが、今は唯一歩くことが趣味となりました。「花の山旅」、「展望の山旅」をテーマに低山ハイク・2 時間登頂の山歩きをしています。高い山には、山頂近くまでロープウェイで行く他力本願山登りをしています。又、日本橋から三条大橋を目指して東海道歩きをしています。現在静岡県の原宿まで辿り着いています。

A5: 自分が子供の頃は、動くおもちゃにしか興味が無く、親にねだって買って貰っていました。3 日間位これで遊ぶと、どのようにして動くのかを知りたくなり、分解して観察し、その仕組みを理解しました。親からは「買ったばかりなのに、もう壊した」と何時も怒られていました。

例えば動く物の仕組みや動作原理と言ったものに興味を持ち、現象の因果関係を理解するのが楽しくなれば良いと思います。

ボランティア スタッフ募集

主として在宅でできる事務を手伝ってくださる方

- ①電話や FAX を使って情報の中継、FAX 送受信。
 - ②携帯やパソコンでメール連絡: ③会計帳簿つけ、
 - ④ ホームページ作り など (どれか一つか二つ)
- 年齢を問わず、お手伝いいただける方を探しています。(資格=パソコンでEメールできる方、FAXある方)

お問合わせ、ご応募は

TEL/FAX 045-710-2679 安田まで

<プロフィールつづき>



坂本欣也 さん (横浜北Gp)

A1: 和歌山県の紀北、紀ノ川流域で生まれましたが、育ったのは同県本州最南端に位置する串本町です。父が船大工の棟梁をしていた影響もあり、高卒後は三井造船にて働き、その後広島県竹原市の職業訓練校造船製図科にて学び、その技術を家業に伝えました。その後は大学に入学し、法律学を学び、公務員として就職しました。しかし、苦手な理系を克服するために、働きながら工学部にて化学を学び、横浜市内の工業高校に機械科の教員として転職。授業に資するために、ここでも働きながら学び、破壊力学なる修士論文は書きました。しかし、その学校も今年度で無くなります。市立学校から工業課程が全くなり、市内の工業科の教員はほとんどいなくなりました。そこでやむなく、理科の教員に昨年4月に転科・異動したところです。しかし、やってみると理科を教えるのも結構楽しいですよ。

A2: 科学技術の面白さを子ども達に伝えられればよいなとずっと思ってきました。しかし、個人で行うにはノウハウがありません。たまたま、2年程前に、この工房の事を知り、研修を受けました。

A3: こども達の目線で、物事を見たり考えたりできるようにになりたい。こども達と友達になりたい。職業柄、教えなければいけないとの脅迫観念がありますが、探検工房に来ている子ども達に対してはその義務がありません。いろいろなことに興味を示した子ども達には「やってごらん。何でだろう。」と、基本的には、アドバイス優先のスタンスをとり続けたい。子どもたちが抱く数々の疑問は、やがて、かならずや大きく花開くはずである。そのことを期待して。

A4: 横浜大好き人間の集まりイマヨコNAVIのメンバーです。横浜市内を探検し、それを取得ホームページ上に報告しています。陸上審判を長くやっていますが、それよりも長いのが町の空手道場に通って25年です。子ども達への指導はもちろんですが、もっぱら空手おじさん達の親睦会幹事に生きがいを感じています。

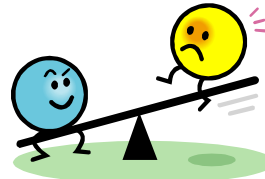
A5: 世の中にはびっくりしたり、不思議なことがいっぱいあります。何でそうなるんだろうと感じたら、放っておかずに本などで調べたり、授業を聞きもらさないようにしましょう。いつまでもふしぎだと思い続けてください。そのうちに必ずやヒントが見つかります。大発見につながるかも知れません。

そのためには何でも自分で体験してみよう。私達たんけん工房のスタッフが皆さんを待っています。

A6: たんけん工房で体験したこども達が、その後も成長できるようなシステムを構築できたらいいと思う。たんけん工房には皆勤賞に近い子ども達もたくさんいる。しかし、

たんけん工房が終わればそれまでである。せっかく、時間と労力をかけて私達が育てるのであるならば、その後もつながりを持ちたい。

こども達には大きな力と可能性がある。科学探求・研究都市横浜・藤沢というユニークな都市作りを密かに願っているが、その可能性を秘めていると思う。例えば、子ども達の成長過程で、理科や工作等で疑問が生じたら、いつでも相談が可能な状態にするとか、中・高校生・大学生になったら、今度は私達と共に、スタッフや準スタッフとして、後輩の子ども達に指導してもらい、そのことによって探検工房の文化を伝えていってもらいたいとも考えている。もっとも、これは、私のたわいもない願いですが。



古沢 明彦 さん (横浜北 Gp)

A1: * 生まれ: 横浜市中区

* 育ち: 20歳まで横須賀で暮らし、後に生まれた地に。神奈川県以外では暮らしたことがありませんでしたが、仕事の関係で、1年間長野市内に赴任ちょうど、長野五輪が決定した年でした。

A2: 元は、20数年間公務員でしたが、俗にいう脱サラをして、小さな学習塾を創りました。そもそも、学校の先生になるのが夢でしたが、学生生活が怠惰でしたので夢かなわず、この歳になって子供たちとかかわることをやってみたいというのがきっかけでしたそんなある日、安田代表がFヨコに出演している番組をラジオで聞き応募いたしました。

A3: もともと小さいころから工作や、電気(当時は真空管ラジオやトランジスタラジオ)の工作が大好きで、出来上がった時の喜びは今でも感激の感を持っています。また、写真にも興味を持ち針孔写真機を創り、色々なものを撮影し現像して楽しんでいました。今の若い世代にも、そんな小さな感動を味わってもらいたいと思っています。

A4: 昨年のY150を契機に、今はSEの仕事をしていますので、PCでも何かを作り出し、出来上がった喜びを感じる日々があるので、そのようなことも若い世代に味わってもらいたいと思いい、あさひフォーラムに参加しています

A5: まずは子供だけでなく、コミュニケーションです。大人が襟を正すべきと思っているので、ごく身近な「あいさつ」から始まり、多くの人たちと多くのコミュニケーションをとれるようになってもらいたいと思います。それにはまず、大人が実践することだと考えています。

A6 おもしろ探検工房の講座に参加して、子供たちの輝いている眼を見るのがとても楽しいと思っています。また、同席された保護者の方々が、わが子を見る目をみているので、今日の講座をお家に帰り、振り返る家族のコミュニケーションを大切視していただきたいと思います。

